

2023年3月期

# ソフト99コーポレーション

決算説明会

2023年5月31日

- 本資料には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれております。この将来予測に基づく記載や発言は、製品の需要変動、景気動向、天候およびその他のリスクや不確定要素を含みます。
- 本資料に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、資料の作成時点で入手可能な情報に基づいており、私たちは、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。
- またこの記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が私たちの現在の期待とは実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となりえます。

I : 企業グループの概要	P.3
II : 経営成績推移について	P.6
III : 事業の概況について	P.10
IV : 第7次中期経営計画	P.18
① 当社グループを取り巻く環境	P.19
② 経営理念と計画テーマ	P.23
③ 経営ビジョン	P.25
④ 計数目標	P.32
⑤ 株主還元策・設備投資・効率性指標	P.36

## Appendix: 計数資料

# I : 企業グループの概要

# I : 企業グループの概要 (会社概要)



## 株式会社 ソフト99コーポレーション

創 立 … 1954年10月28日

主要事業 … 自動車用・家庭用ケミカル用品の製造販売  
機能性精密多孔質体製品の製造販売

従業員数 … 837名 (2023年3月31日現在・連結)

関係会社 … 10社 (当社含む連結対象企業)

### 当社主要製品の歴史

1969年  
「ハンネリ」



1978年  
「ボデーペン」



1987年  
「タイネット」



1993年  
「ぬりぬりガラコ」



1999年  
「プラスセーヌ」



1999年  
「フクピカwet」



2003年  
「G'zoxシリーズ」



2006年  
「メガネのシャンプー」



※ プラスセーヌ(旧 プラスセーム)は鐘紡株式会社より1963年に発売、事業譲渡にて1999年より当社グループによる製造販売を開始。

# I : 企業グループの概要 (事業セグメント概要)

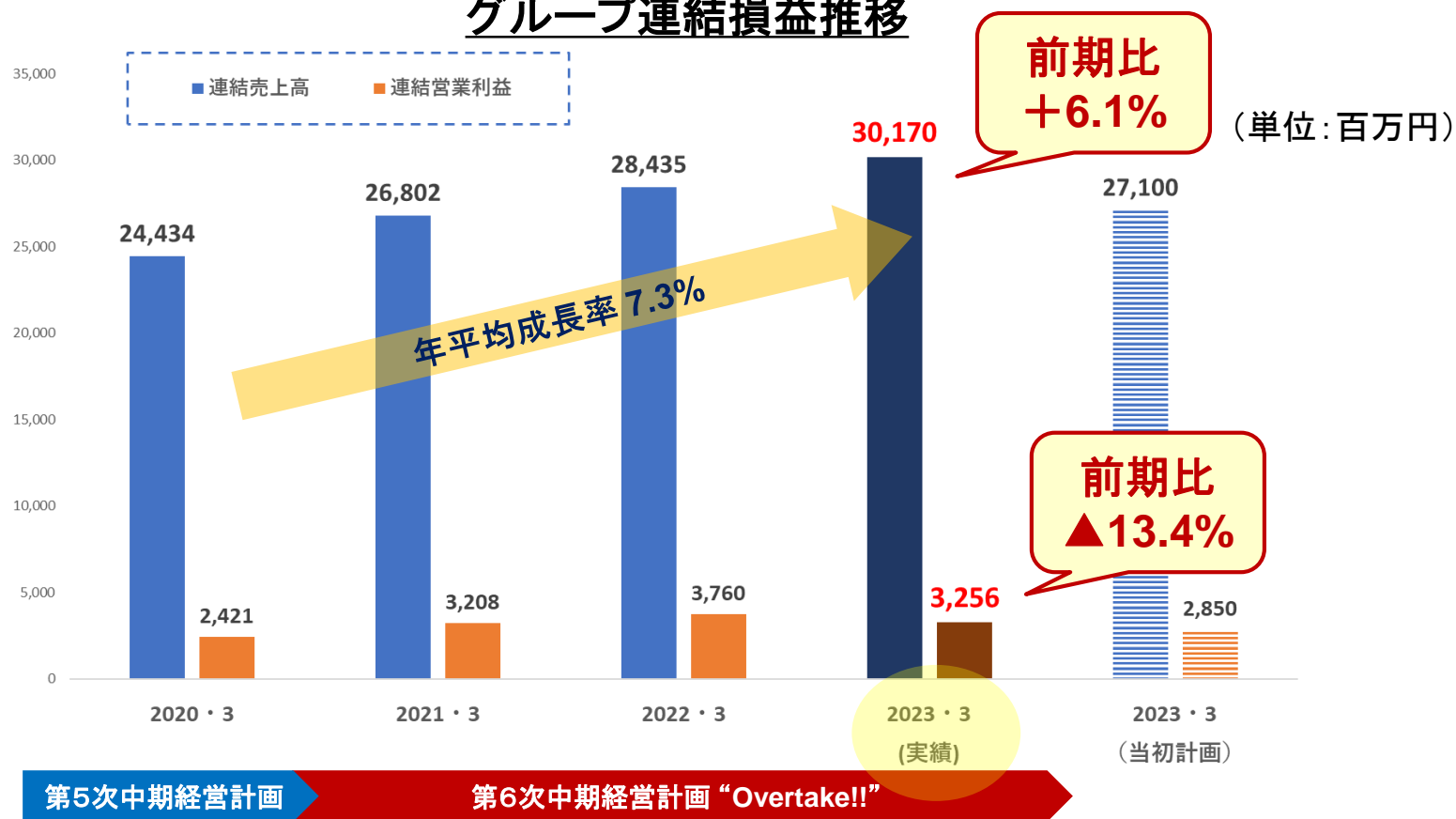
事業セグメント	サブセグメント	
<b>① ファインケミカル</b> 自動車用・家庭用ケミカル用品の製造販売	一般消費者用製品(自動車向け)	祖業 横展開による 事業領域拡大
	業務用製品(自動車向け、その他産業向け)	
	家庭用品等製品	
	海外事業	
	タイヤ空気圧監視装置 企画・開発・販売	
	電子機器・ソフトウェア開発	
<b>② ポーラスマテリアル</b> 機能性精密多孔質体製品の製造販売	産業資材 (ハイテク産業向け精密洗浄・研磨・濾過用途製品) (医療・衛生用途製品)	M&Aによる 事業領域拡大
	生活資材 (自動車、キッチン、化粧、スポーツ等用品)	
<b>③ サービス</b>	自動車整備・钣金	保有資産の 収益化
	自動車教習	
	生活用品等企画販売	
<b>④ 不動産関連</b>	不動産賃貸	
	温浴施設運営・介護予防支援	

## Ⅱ：経営成績推移について

## Ⅱ：経営成績推移について(連結損益)

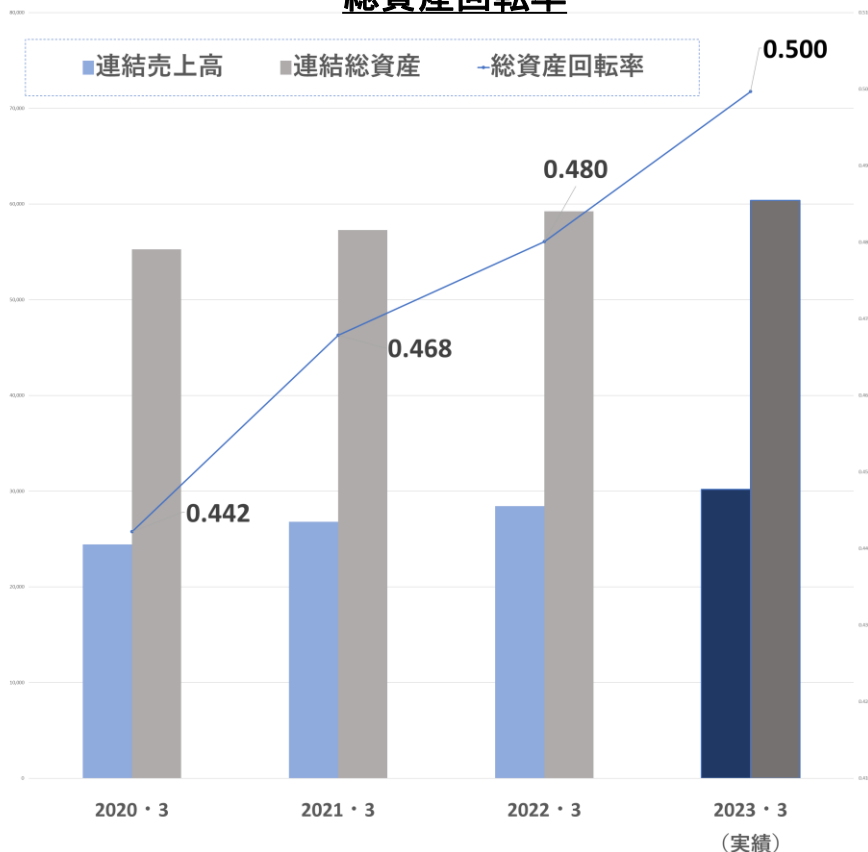
- 連結売上高において、コロナ禍による特需を追い風に2年目(2022年3月期)に過去最高となる。
- 最終年度においては特需が落ち着いてきたものの当初計画値を上回り、売上高CAGRは7.3%と第6次中期計画期間中の2.9%を上回る実績となる。
- 連結営業利益においても、同様に当初計画値を上回る結果で着地となった。

### グループ連結損益推移



## Ⅱ：経営成績推移について(主要経営指標)

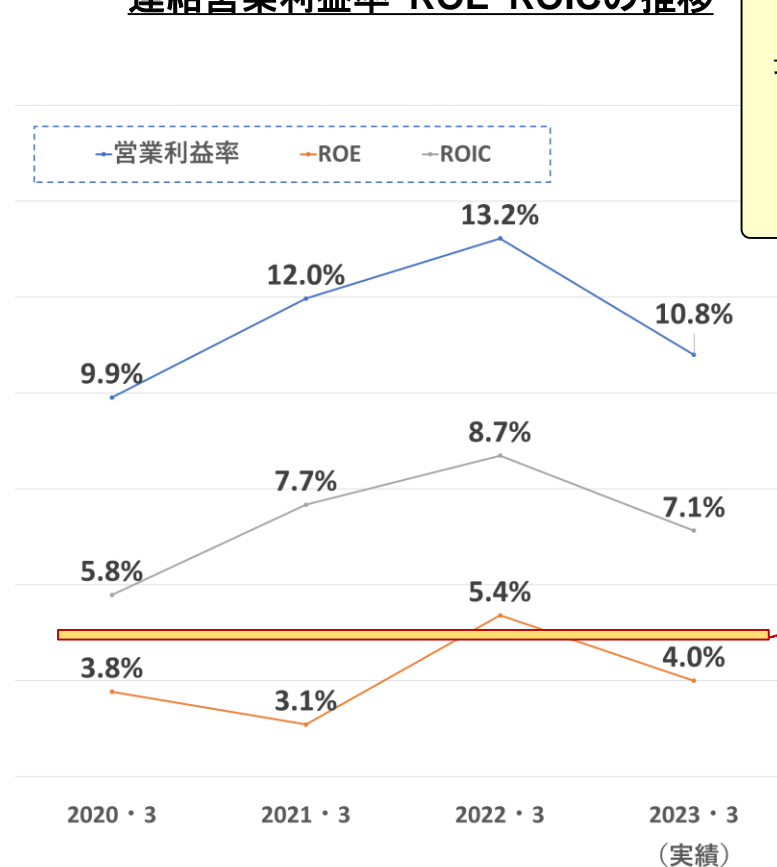
### 総資産回転率



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

### 連結営業利益率・ROE・ROICの推移



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

第6次中計の  
資本効率指標  
最終目標(当初設定)

- ・営業利益…10.5%
- ・ROE ……4.0%
- ・ROIC ……6.1%

6次中計における  
資本コストは  
4.5～5.0%を想定

※ ROIC=税引き後営業利益÷事業投下資本

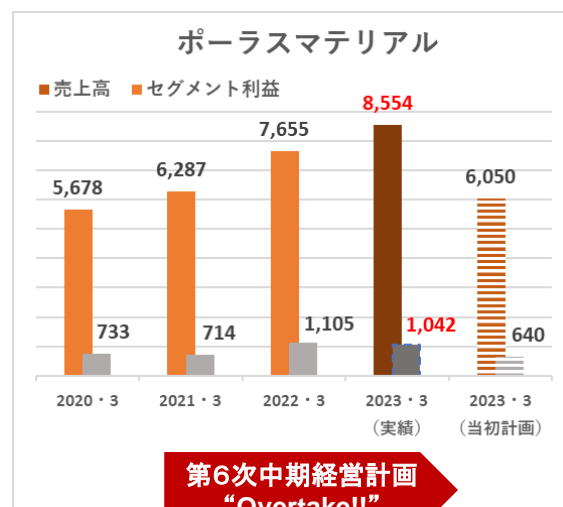
・税引き後営業利益=営業利益×(1-実効税率30%)

・事業投下資本=(流動資産-現預金-有価証券)-流動負債+(固定資産-保有社債)



## Ⅱ：経営成績推移について(セグメント別損益)

- 初年度はコロナ禍による外出自粛の影響を受けてサービス、不動産関連セグメントが苦戦するも巣ごもり消費需要の高まりなどを受けてファインケミカル・ポラスマテリアルが伸長する。
- 最終年度は、主にファインケミカルにおいて海外伸長によるミックス変化や原材料高により、利益面では苦戦する。



- 外出自粛に伴う巣ごもり消費需要がカーケアに波及し一般消費者向け製品販売や海外向け製品販売が伸長する。
- 一方で、海外販売の伸長によるミックス変化や原材料高の影響により利益面は計画を下回る。

- 半導体の需要拡大により、産業資材向け製品出荷が伸長
- 2020年にアズテックがグループ入りしたことが損益増加に寄与する。
- 利益面においても工場の稼働率が向上したことで計画を上回る。

- コロナ禍による営業自粛要請が影響し、温浴事業が苦戦
- 自動車整備钣金事業においては降雪の影響により、钣金需要が増加したことやコーティング・フィルム施工の稼働が好調に推移したことで、利益面では計画を上回る。

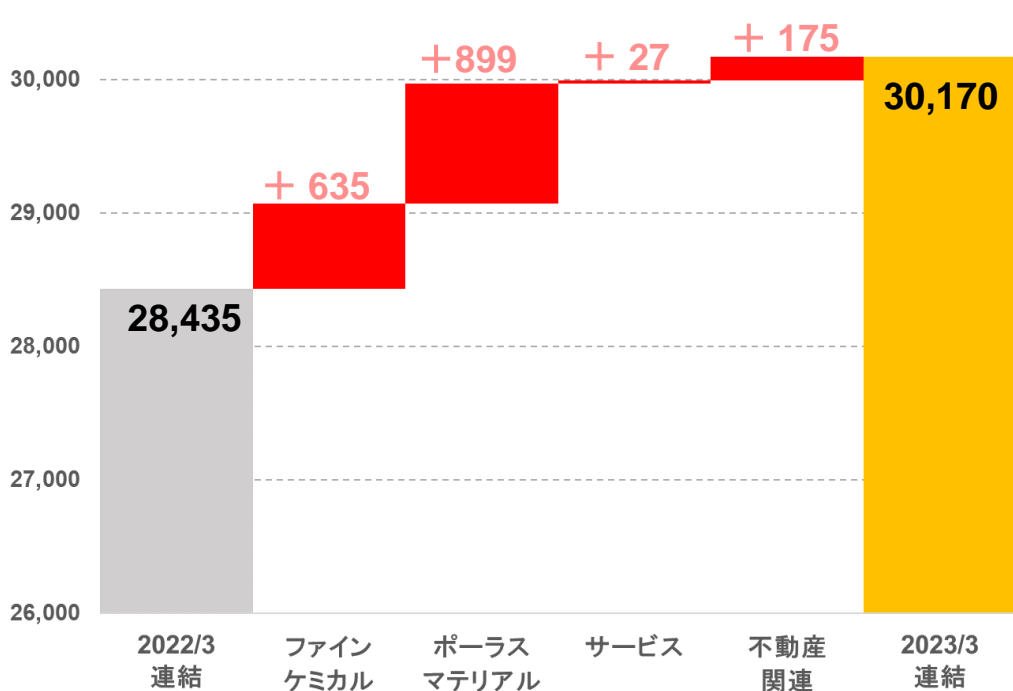
## Ⅲ：事業の概況について

# Ⅲ：事業の概況 セグメント別 損益増減(前期比)

- 売上高……………ポーラスマテリアルを始めとして、全セグメントで増収となる。
- セグメント利益……………サービス・不動産関連は増益を確保するもファインケミカルは海外販売の伸長によるミックス変化の影響で粗利率が悪化、またポーラスマテリアルは エネルギー価格や原材料の上昇を要因に減益となる。

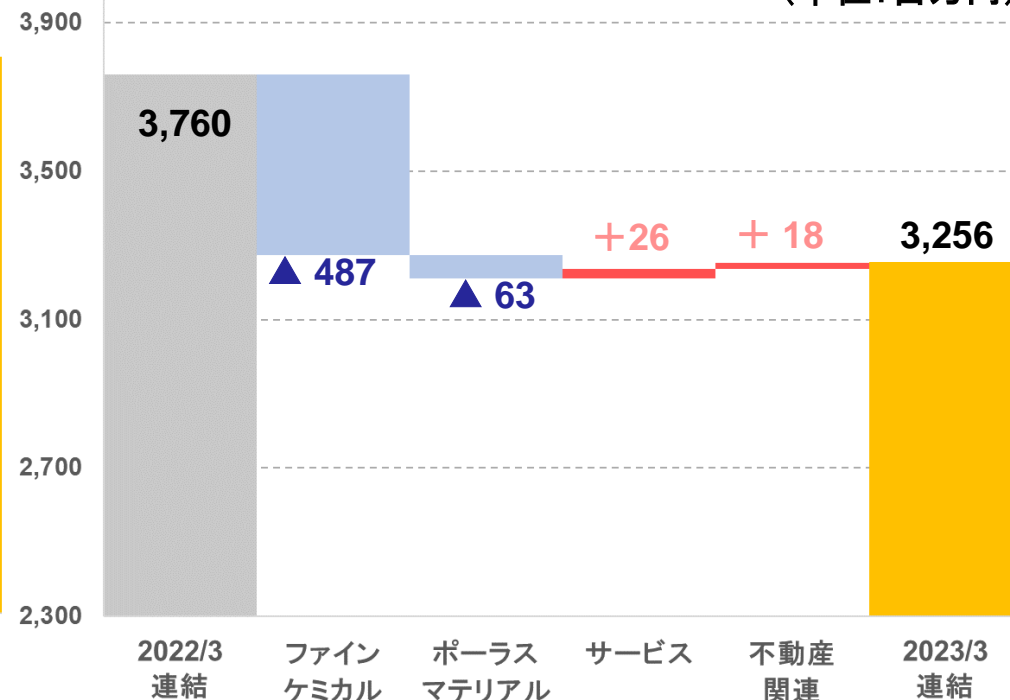
## セグメント別売上高・前期比増減

(単位:百万円)



## セグメント別利益・前期比増減

(単位:百万円)

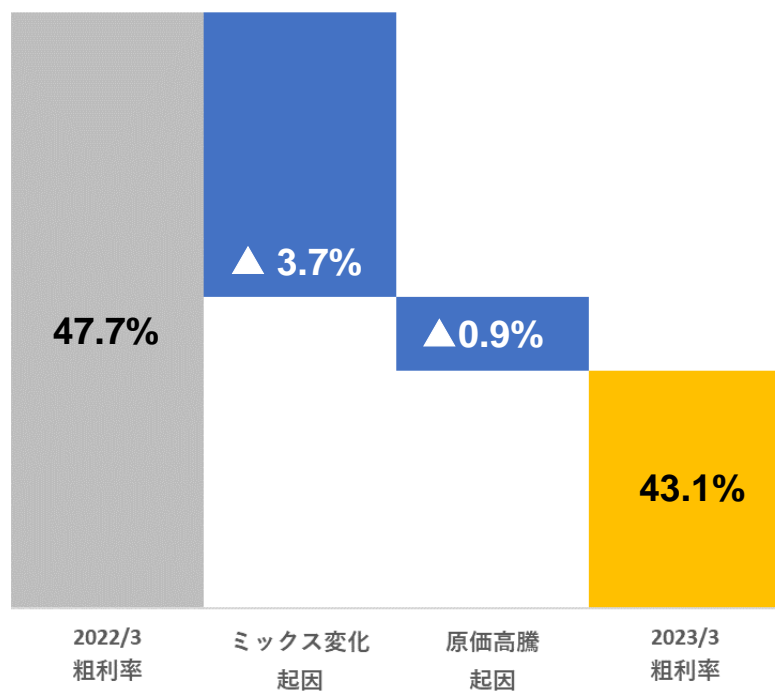


(注)連結調整額除く

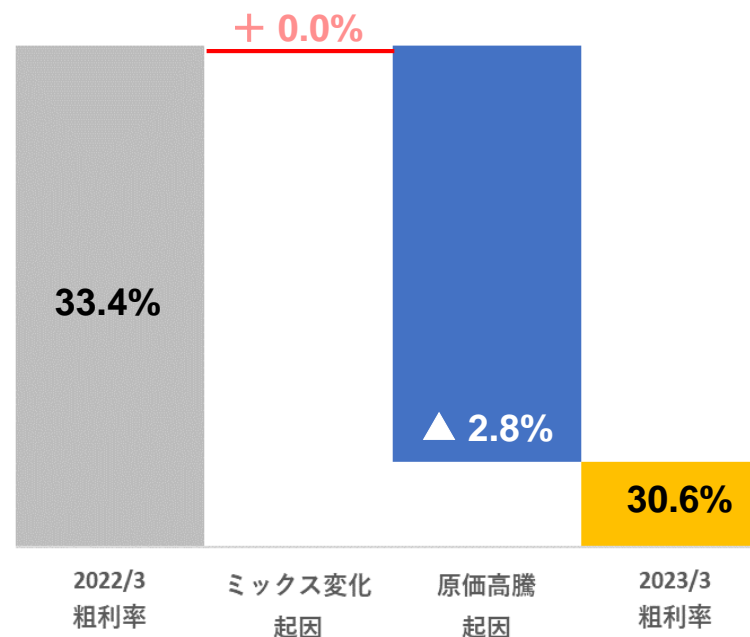
## Ⅲ：事業の概況 粗利率 変動要因(前期比)

- ファインケミカル(ソフト99)・・・海外販売の伸長によるミックス変化の影響により利益率が悪化。
- ポーラスマテリアル(アイオン)・・・エネルギー価格の上昇によるコストアップの影響により利益率が悪化。

### ソフト99製品販売 粗利率 前期比増減



### アイオン 粗利率 前期比増減



(注)連結調整前にて計算

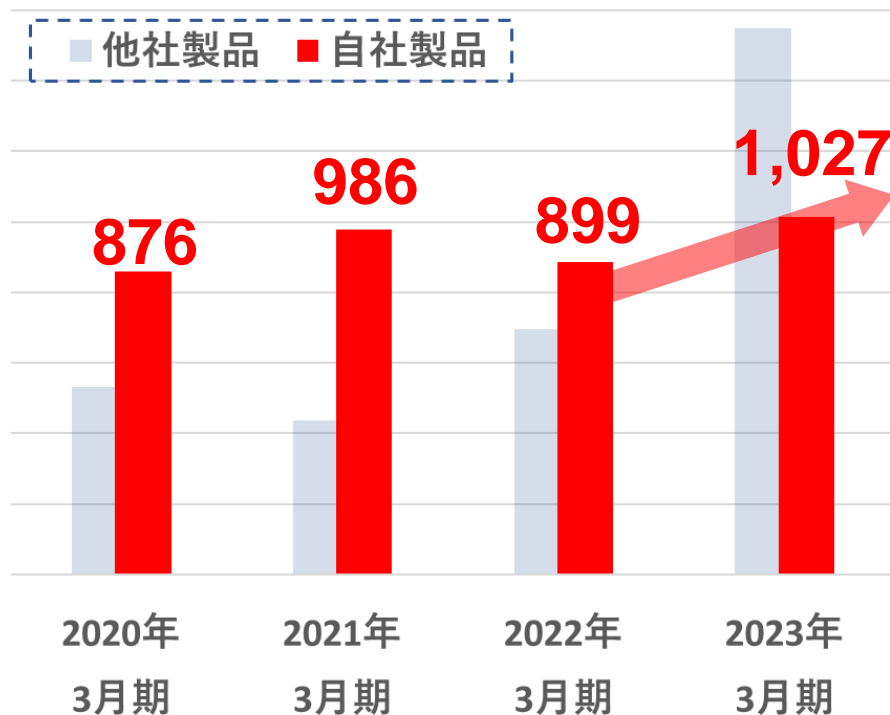
## Ⅲ：事業の概況 (ファインケミカルセグメント：海外製品販売)

- 2022年3月期は中国のロックダウンの影響により販売が減少するも、現地語パッケージの推進や仕向け地専売品の拡充により2023年3月期は自社製品販売が伸長する。
- 2023年3月期においては他社製品販売が伸長したことで、海外製品販売全体の利益率が悪化する。

### 99製品・他社製品 売上推移

※数値は自社製品の実績

(単位：百万円)



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

### 仕向け地専売品の拡充



### 現地語パッケージの推進

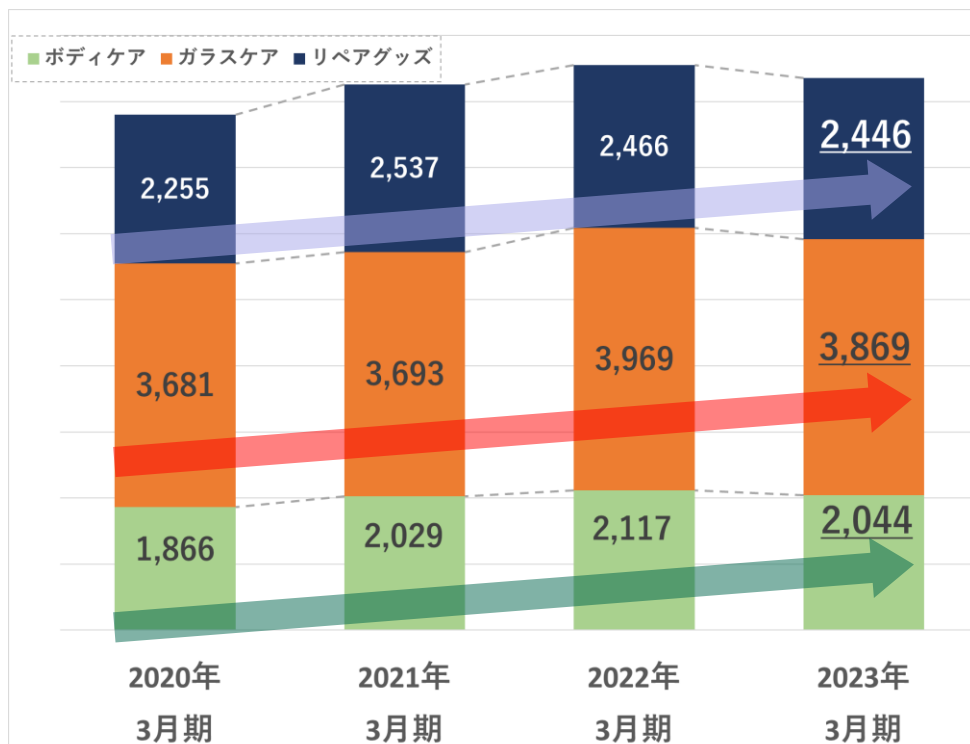


# Ⅲ：事業の概況（ファインケミカルセグメント：一般消費者向け製品販売）

- 巣ごもり消費需要の収束に伴って2023年3月期は販売が減少したものの、新製品の販売が好調に推移していることなどを要因に第5次中計最終年度（2020年3月期）と比較して高い販売水準を維持する。

## 一般消費者用製品 売上推移

（単位：百万円）



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

ボディケアにおいて新しい洗車スタイルを提案する製品リリースを強化



“glaco”シリーズ販売30周年キャンペーンなど販促や製品リリースを強化



タイヤ・ホイールクリーニング製品の販売を強化

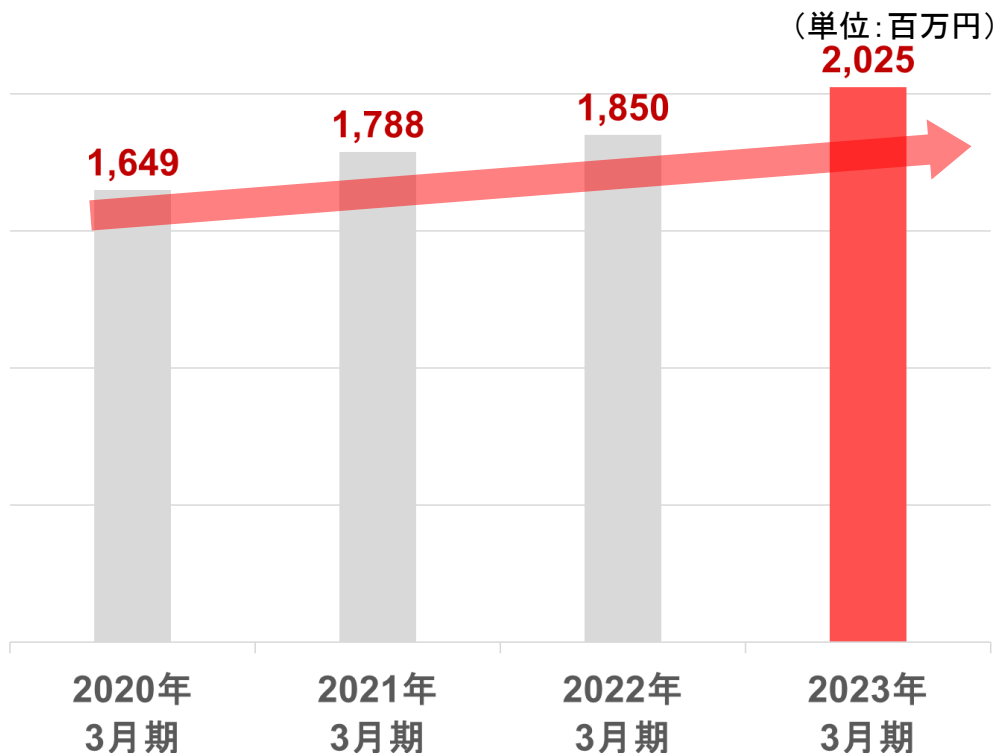


## Ⅲ：事業の概況（ファインケミカルセグメント：業務用・家庭用製品販売）

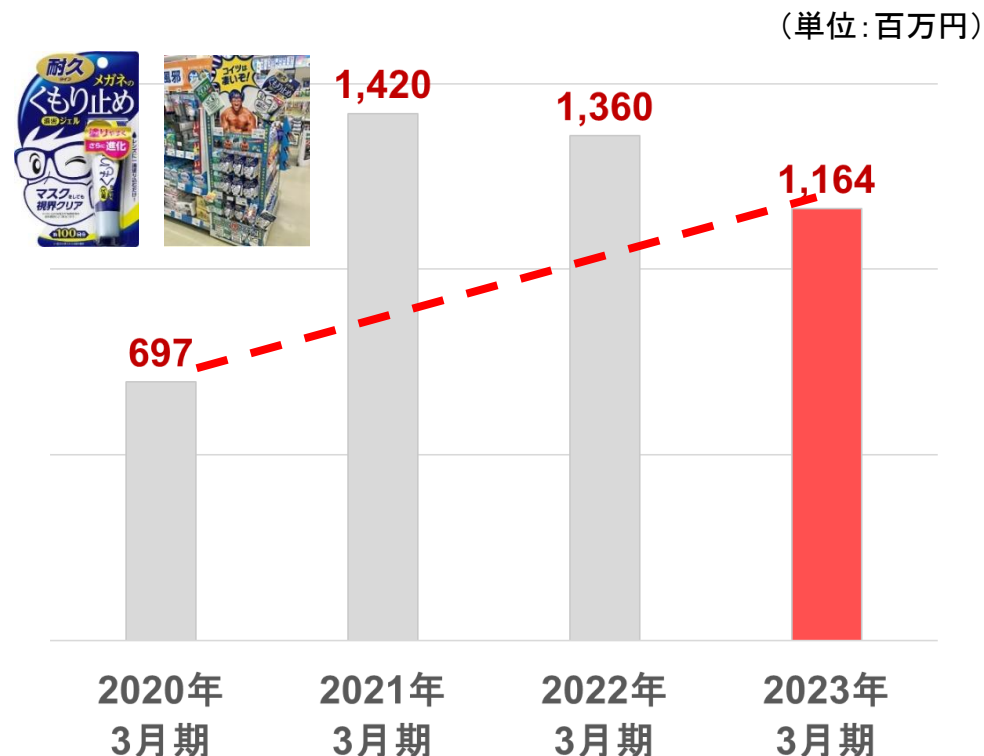
- 新車の供給が不安定の中、得意先とともに施工率の向上などの取り組みにより販売が伸長する。

- メガネケア製品の販売は落ち着いているものの、販売ロケーションが拡大したことで2020年3月期の実績を上回る。

### 業務用製品 売上推移



### 家庭用製品 売上推移



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

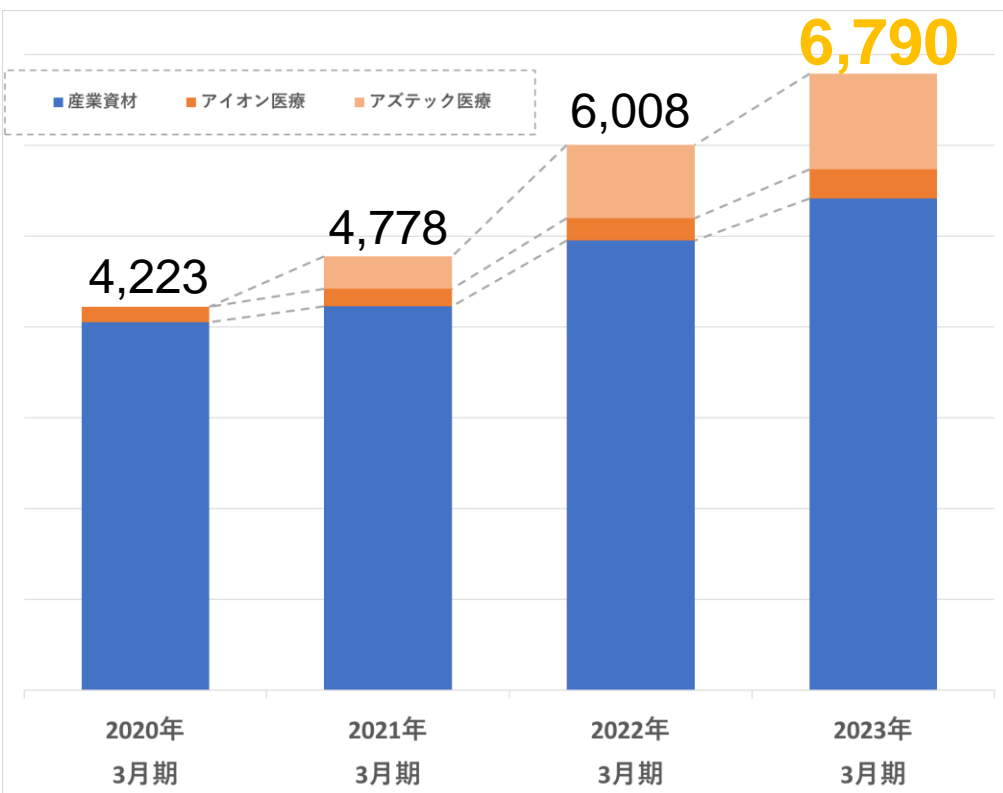
第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

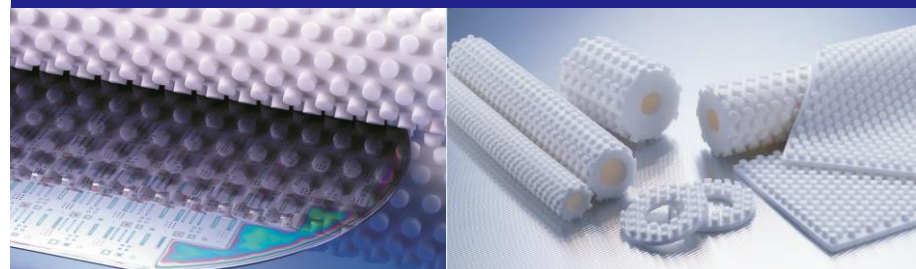
# Ⅲ：事業の概況（ポーラスマテリアルセグメント）

- 産業資材においては、半導体関連の出荷が好調に推移する。病院施設向け医療・衛生用品販売においても堅調に推移するもPVAスポンジの医療現場展開については道半ばとなる。

## 産業資材 売上推移 （単位：百万円）



半導体の需要が堅調に推移したことで出荷が伸長する。



医療向け製品においても堅調に推移



工場新設による生産体制強化



2023年3月期 下期以降は工場に係る減価償却が始まる。

第5次中期経営計画

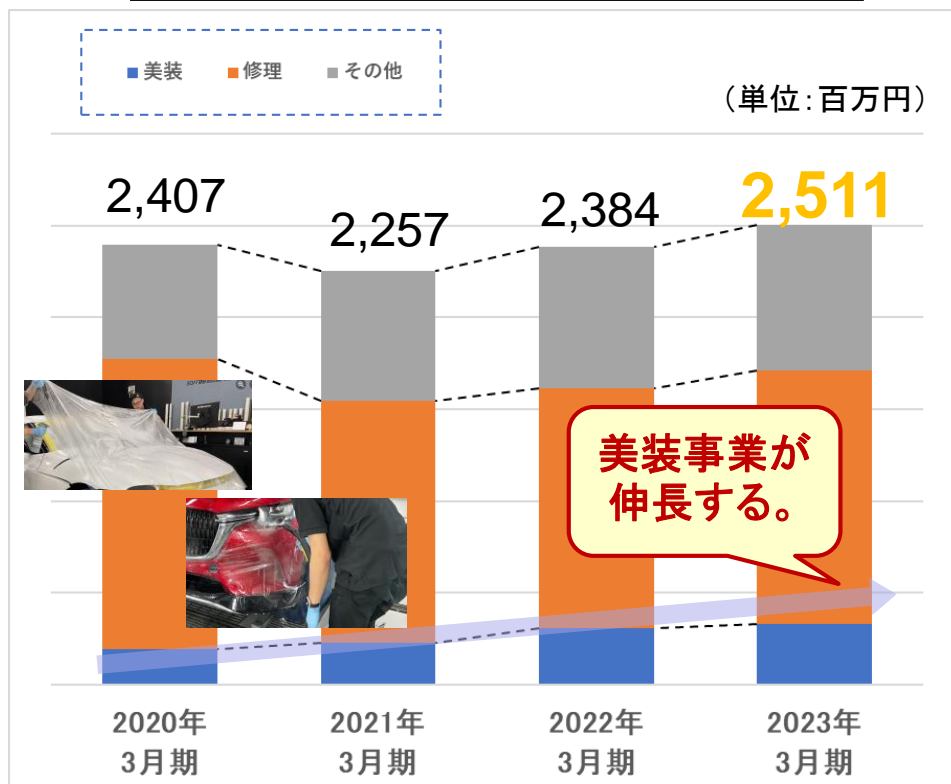
第6次中期経営計画 “Overtake!!”



## Ⅲ：事業の概況（サービスセグメント）

- 自動車整備钣金事業は、钣金需要の回復とフィルム・コーティングなどの美装事業が好調に推移したことで業績が伸長する。

### 自動車整備钣金事業 売上推移

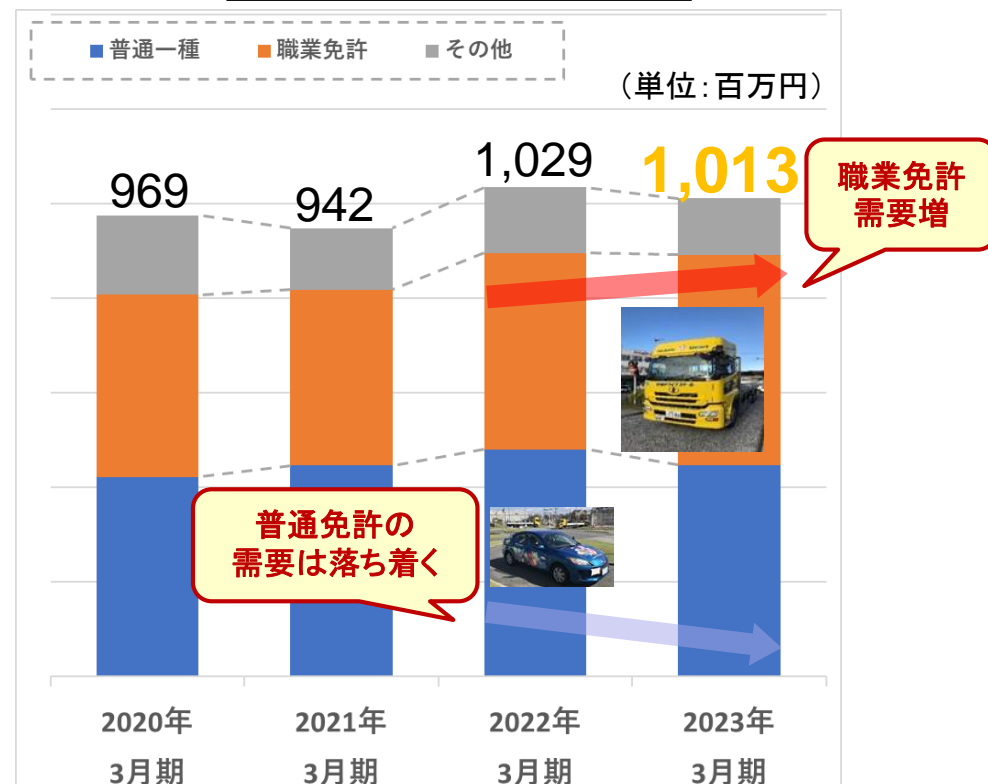


第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

- 自動車教習事業は、学生による普通免許取得のニーズは落ち着いたものの、職業免許の教習稼働が好調に推移する。

### 教習事業 売上推移



第5次中期経営計画

第6次中期経営計画 “Overtake!!”

## IV : 第7次中期経営計画について



### ① 当社グループを取り巻く環境



# ①.当社グループを取り巻く環境(コロナ禍がもたらした環境変化)

- コロナ禍による環境の変化は当社グループにとってプラス、マイナス両方の影響を及ぼした。
- 社会が正常化しつつあるなかでその変化が『当たり前になる(定着する)』ものと『元に戻る』ものがあると想定する。

事業セグメント	サブセグメント	コロナ禍の影響(第6次中計期間)
ファインケミカル	一般消費者用製品(自動車向け)	巣ごもり消費需要がカーケアに波及
	業務用製品(自動車向け、その他産業向け)	新車における注文から納車までのリードタイム延長 中古車需要の伸長
	家庭用品等製品	マスク着用の常態化に伴う需要増
	海外事業	ロックダウンによる巣ごもりECシフト進む
	タイヤ空気圧監視装置 企画・開発・販売	—
	電子機器・ソフトウェア開発	原材料の調達が難航し、出荷が減少
ポラスマテリアル	産業資材 (ハイテク産業向け精密洗浄・研磨・濾過用途製品) (医療・衛生用途製品)	テレワーク拡大等による半導体需要増加
	生活資材 (自動車、キッチン、化粧、スポーツ等用品)	—
サービス	自動車整備・钣金	自動車部品の供給が不安となり、入庫から出庫までのリードタイム延長。
	自動車教習	オンライン授業などで時間のできた学生の普通免許取得ニーズが増加。
	生活用品等企画販売	外出による感染リスク回避のための通販需要を取り込み販売伸長
不動産関連	不動産賃貸	—
	温浴施設運営・介護予防支援	営業制限や感染リスク回避により飲食収益減少

赤字は今後需要が落ち着き元に戻ることが想定される影響。



コロナ禍を経て社会が正常化に進んだ先の環境変化を見据える必要がある。

# ① 当社グループを取り巻く環境（社会的要請）

■ 近年は経営成績などの財務面だけでなく環境対応や人財育成などの非財務面における取組みや開示が求められており、ソフト99グループにおいてもこれまでの取組みの継続と併せて更に企業価値の向上と社会的意義の両立ができるよう事業運営を推進する。

### 省資源化による炭素源削減

パッケージ軽量化	脱・減プラ FSC認証

### 化学物質の適切な使用

化学物質規制対応	新型水性塗装ブース
<ul style="list-style-type: none"> <li>2006年 ノゾルフェノール全廃</li> <li>2011年 キシレンフリー</li> <li>2016年 毒劇法対応</li> <li>2018年 エチルベンゼンフリー</li> <li>2020年 有機フッ素化合物(C8)対応</li> </ul>	<p>SOFT99 autoservice</p>

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

### 輸送時におけるCO2削減

モーダルシフト推進	輸送手段合理化推進

CO2削減効果

重複運行削減によるCO2削減

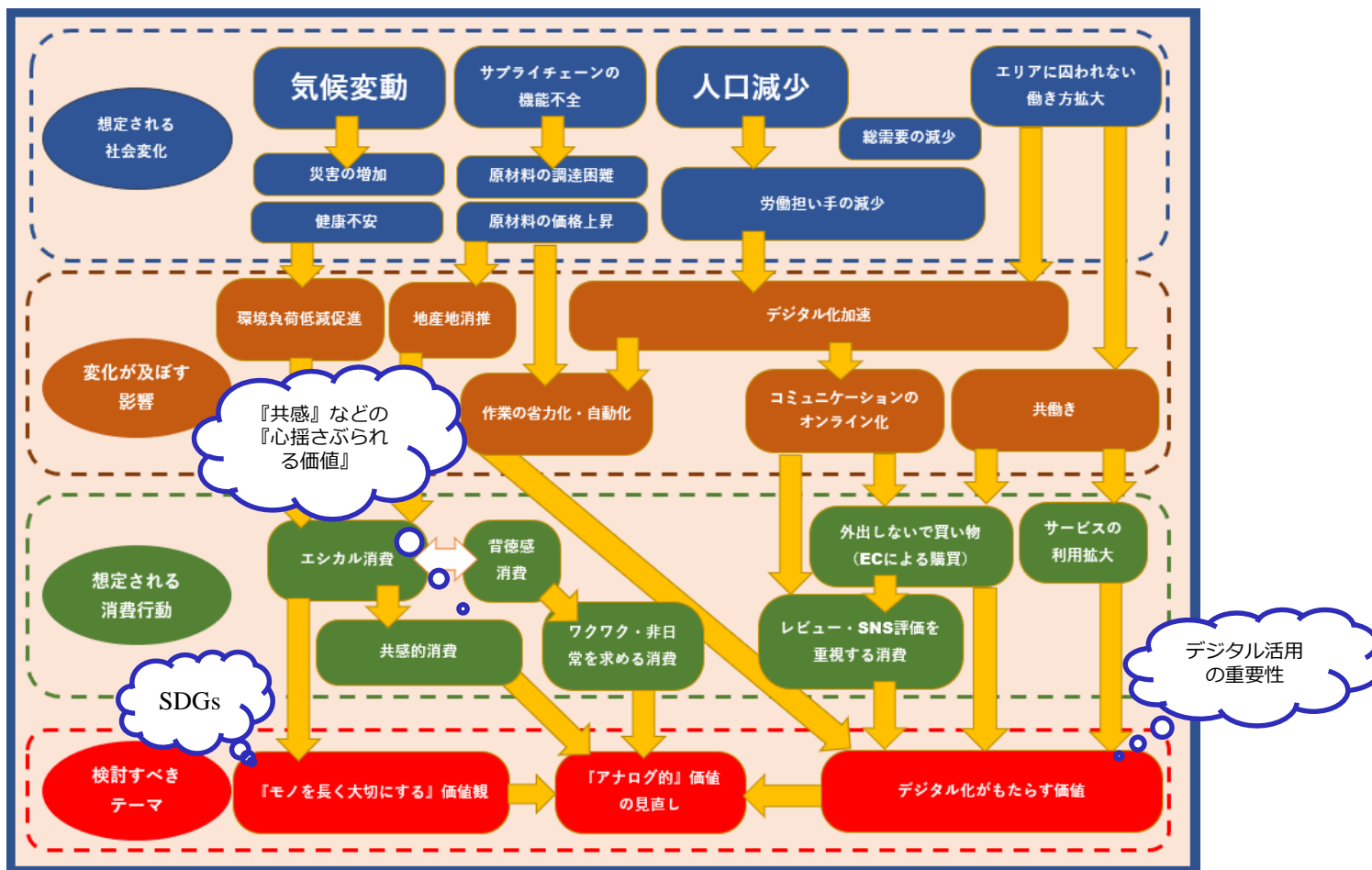
### 人的資本の活性化

多様性の尊重	人財育成への投資

### 子育て・介護支援

# ① 当社グループを取り巻く環境 (想定される社会変化と消費行動)

- 社会変化とその変化が及ぼす社会への影響と消費行動を想定し、ソフト99グループがどのような『価値を提供すべきか』を捉える必要がある。
- ソフト99グループが社会に提供する価値が浸透した結果としてSDGsなどの社会的要請に応えることにつながると想定される。



## IV：第7次中期経営計画について

---

### ②経営理念と計画テーマ



## ②経営理念と計画テーマ

- サプライチェーンの機能不全・気候変動・人口減少などソフト99グループを取り巻く事業環境においても現在進行形でめまぐるしく変化している。
- これらの変化によって新たに発生する社会課題の解決に向けて、既存の延長線上の考え方・行動から脱却し、新たなステージから前に進むため成長ではなく『進化』が必要となる。
- Evolve(進化する)ことで**社会課題の解決に資する価値を提供する存在**であり続けることを目指す。

経営理念

生活文化創造企業  
～未来のあたりまえを発見する。～

当社普遍の経営理念として第3次中期経営計画より継続。

中計テーマ

Evolve!!  
～進化せよ!!～

※evolve・・・進化する。 発展させる。 発達させる。



## IV：第7次中期経営計画について

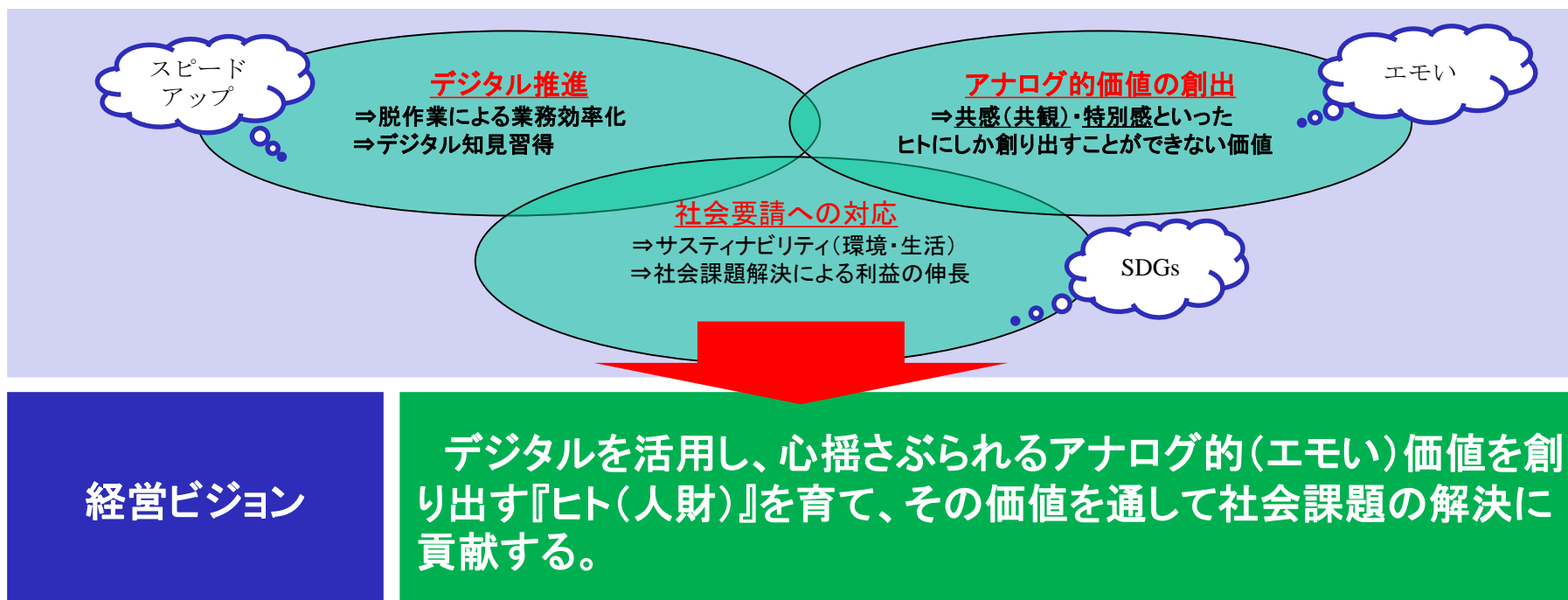
---

### ③経営ビジョン



## ③経営ビジョン

- 作業の効率化・時短、また付加価値を高めるために『デジタルの活用』を推進することは必要不可欠である。
- 一方で倍速消費に代表されるようにデジタル化による『時短』=『善』 また『時間を費やす』=『悪』のような捉え方が広がりつつある。
- しかしながら大事なことは『心揺さぶられるアナログ的(エモい)価値を提供すること』であり、この価値を提供することができれば『時間を費やす』=善にも変換する流れを創ることができると考える。
- ソフト99グループはデジタルによる製品・サービスの付加価値向上と併せてデジタルによる効率化によってもたらされる時間を活用し、『アナログ的価値』を提供することを目指す。



### ③経営ビジョン 強化分野(アナログとデジタル)

- 『アナログ的価値』についての模範解答はないが、デジタルによる同質の価値ではなく**ヒトにしか創り出せない価値**の提供を目指す。デジタルはあくまでも価値の創出のために活用するツールと位置付ける。



ソフト99グループにおける  
アナログ的価値とは？



ソフト99グループにおける  
デジタルの活用とは？

#### 共感

##### 共親

(共通の見解としてともに価値を見る)



利益を共有する  
ネットワークの構築

習慣化するほど  
生活に浸透させる

##### 特別感

(プレミア感の創出)



ここでしか買えない限定商品・サービスなど『心の充足』が得られる。

#### 活用

製品・サービスの  
付加価値を高める。



効率化・時短推進



デジタルの活用などを通して『共感』という**ヒト**でしか創り出せない価値の提供がソフト99グループ『Evolve』につながる。



### ③経営ビジョン 強化分野（強化すべき事業領域）

- 7次中計は既存分野拡大と併せて3つのEvolveすべき分野を設定
- デジタルを足がかりにこれまでにないアナログ的な価値を創り出すことで事業の拡大を図る。

価値提供方法の多様化  
(ファインケミカル)  
(サービス・不動産関連)

デジタル活用



サービス強化・メニュー構築



海外展開強化  
(ファインケミカル)

海外生産体制構築



専売品・現地語製品強化



医療分野強化  
(ポーラスマテリアル)

PVA製品の医療用途強化



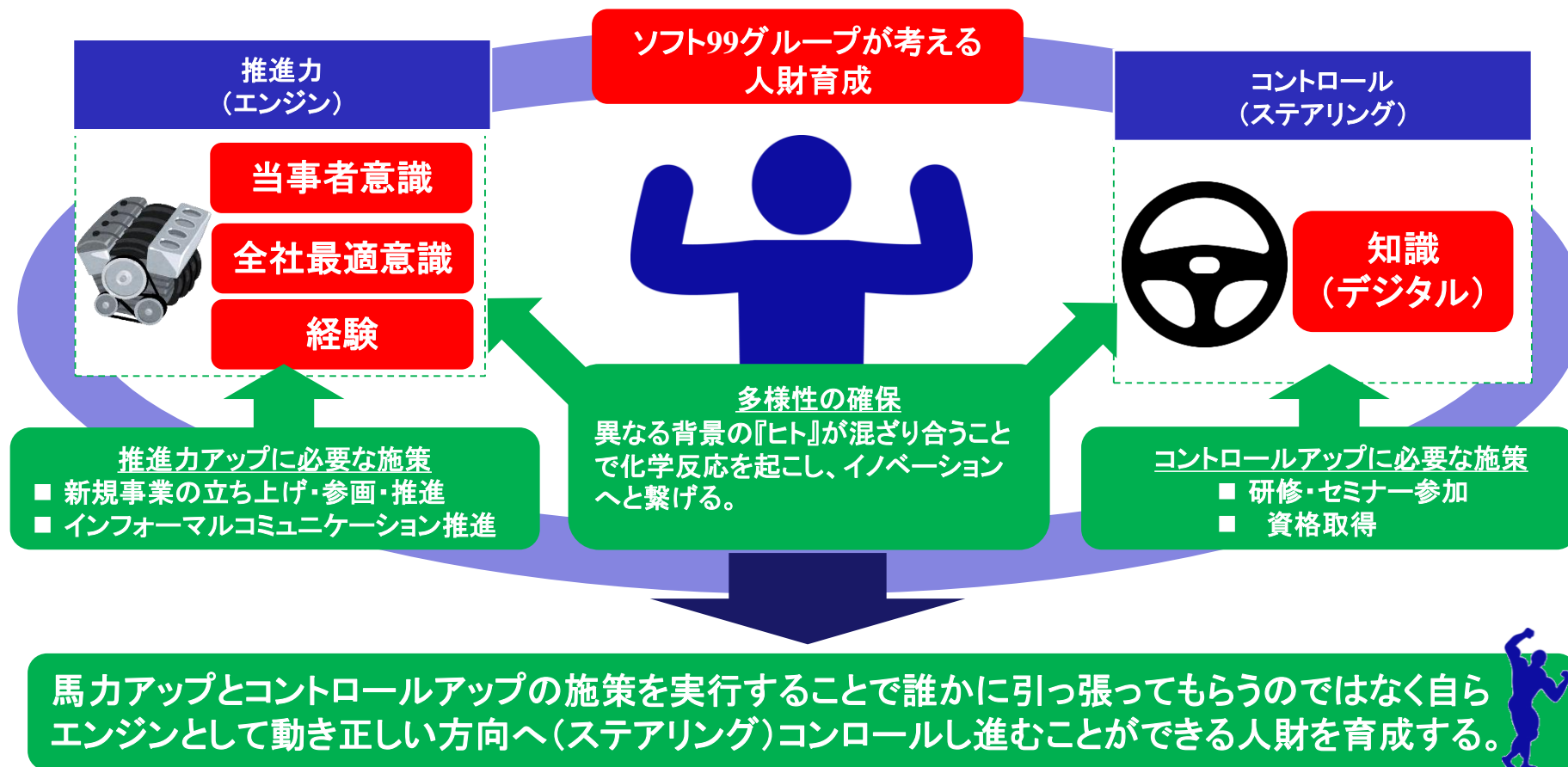
新たなビジネス模索



積極的な設備投資と併せて『デジタルの活用』による付加価値向上により『利益の成長』を図る。

### ③経営ビジョン 強化分野(人財育成と実行施策)

- 『利益の成長(アナログ的価値の創出)』と『サステナビリティ』を実現するうえで『ヒトの成長』が不可欠である。また人的資本の強化について社会的要請が高まっている中で当社グループの『人財育成』について明確にする。



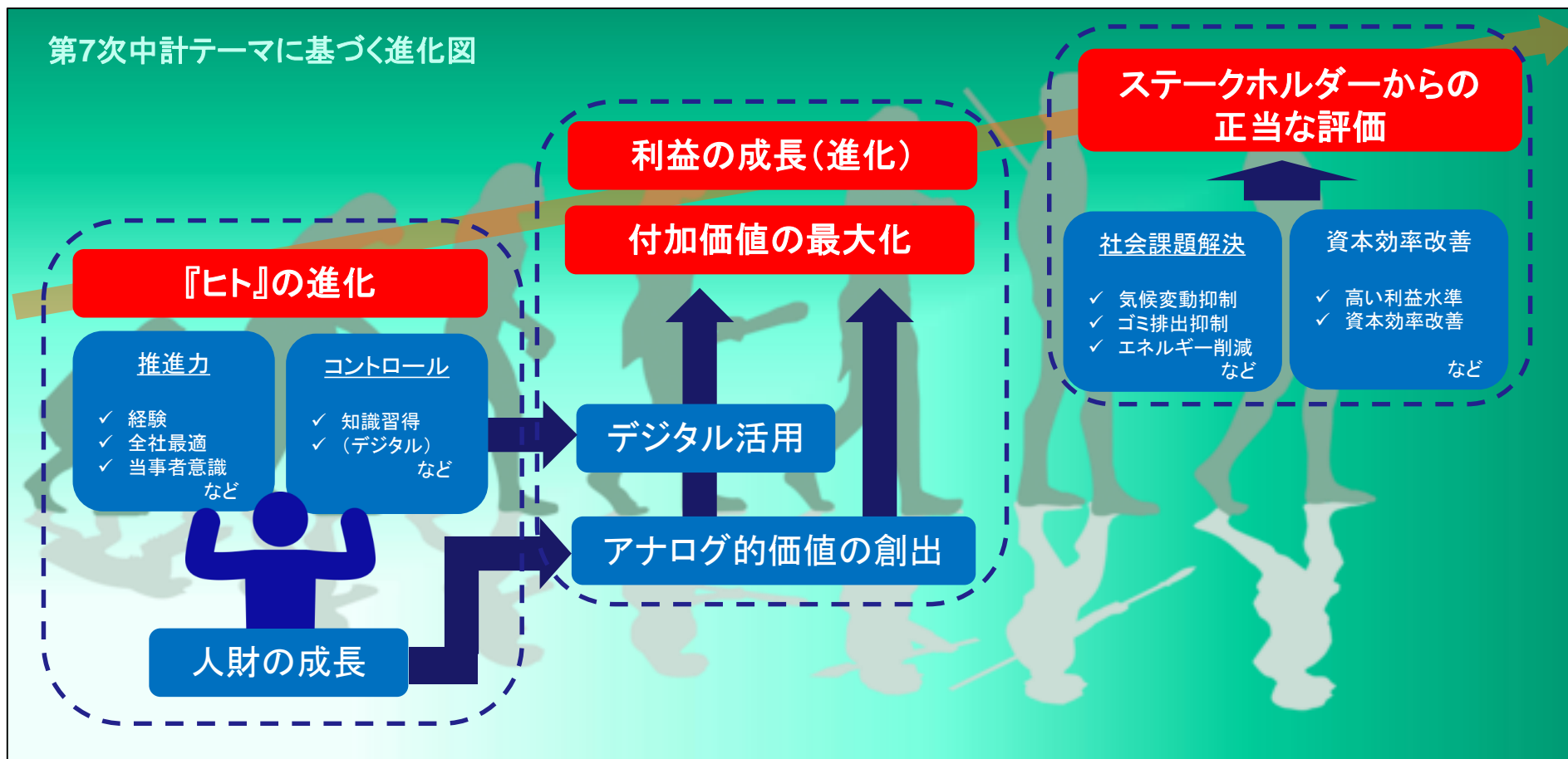
### ③経営ビジョン 強化分野(社会目標への対応)

- ソフト99グループコーポレートガバナンスポリシーに基づいて、『製品・サービスの使用を通して提供される価値』と『製品・サービスの生産工程の改善で生み出される価値』という2つの切り口において社会課題の解決に資する事業運営を目指す。

	社会課題	ソフト99グループ 提供価値	想定される主な事業活動		
製品・サービスの使用を 通じて提供される価値	エネルギーや ゴミの排出抑制	長く大切に	セグメント: サービス 分類: クルマ延命 自動車整備钣金事業	セグメント: ファイン 分類: クルマ延命 一般消費者向け製品販売	セグメント: ファイン 分類: 建物・設備延命 一般消費者向け製品販売
	衛生需要の 高まり	キレイ・快適	セグメント: ファイン 分類: 車内抗菌抗ウイルス 業務用製品販売(自動車)	セグメント: ファイン 分類: 設備抗菌抗ウイルス 業務用製品販売(新事業)	セグメント: ポーラス 分類: 排水処理 産業資材
	高齢化・減災 交通事故抑制	安心・安全	サービス 分類: 交通事故抑制 教習事業	セグメント: ファイン 分類: 交通事故抑制 TPMS事業	セグメント: ポーラス 分類: 高齢化 メディカル
生産工程の改善 で生み出される 価値	気候変動抑制	省資源化による 炭素源の削減	セグメント: ファイン 分類: 容器省資源化 パナックス事業	セグメント: ファイン 分類: 生産物流省力化 一般・業務用製品販売	セグメント: ポーラス 分類: 医療廃棄物減容 メディカル
	水質汚染 健康配慮	化学物質の 適正な使用	セグメント: ファイン・ポーラス 製品生産全般		セグメント: サービス 自動車整備钣金事業・生活用品企画販売

### ③経営ビジョン ステークホルダーからの正当な評価

- ソフト99グループは人財の成長によってアナログ的価値の創出・付加価値を高めることで『利益の成長』を推進し、経営効率の改善を伴う事業規模拡大を実現することで『ステークホルダーからの正当な評価』を目指す。



## IV：第7次中期経営計画について

---

### ④計数目標

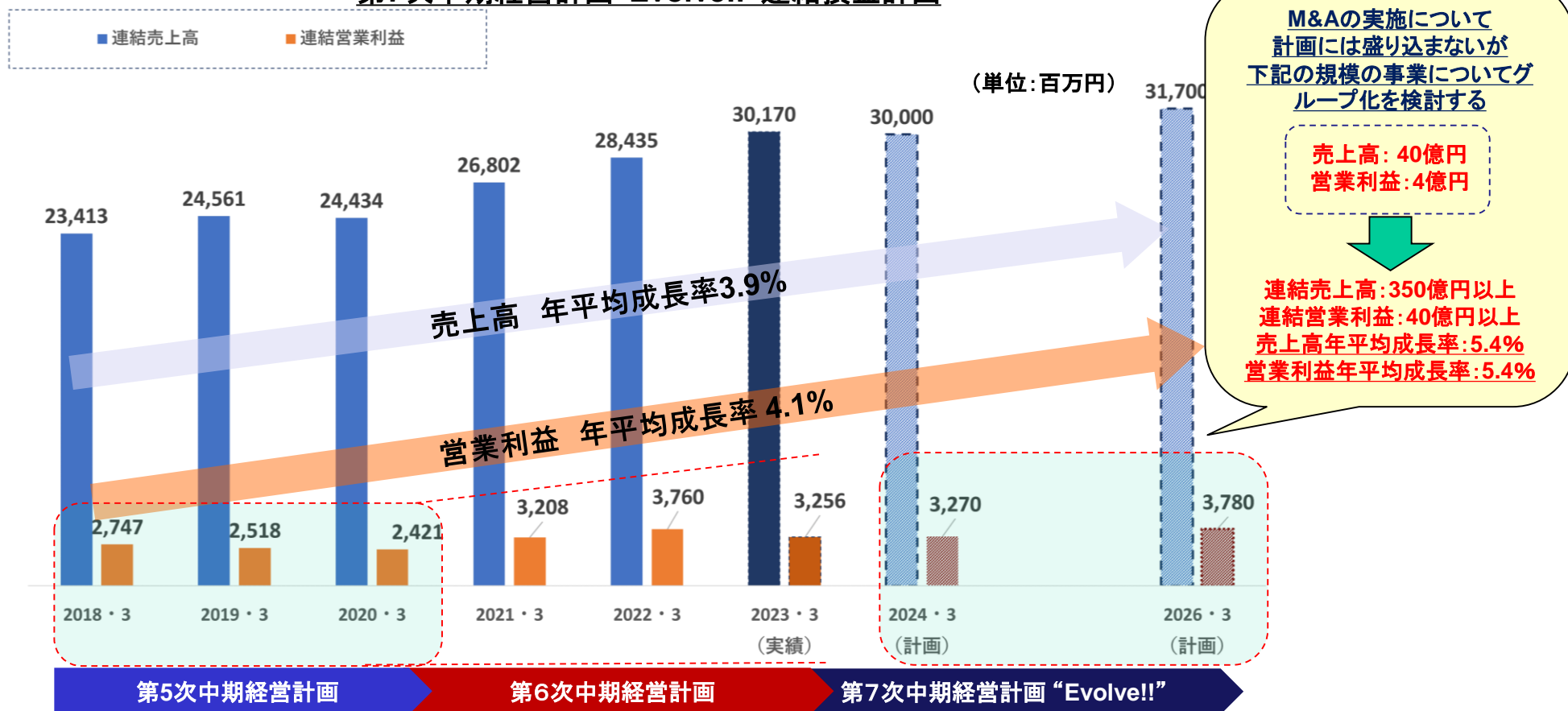




## ④ 計数目標 (連結計数目標)

- **連結営業利益 目標 37.8億円** (2023年3月期比+5.2億円、営業利益率 11.9%)
- **連結売上高 目標 317億円** (2023年3月期比+15.3億円)
- 7次中計においては6次中計期間中の特需的追い風がなくとも付加価値の向上によって営業利益の伸長を目指す。

### 第7次中期経営計画“Evolve!!”連結損益計画



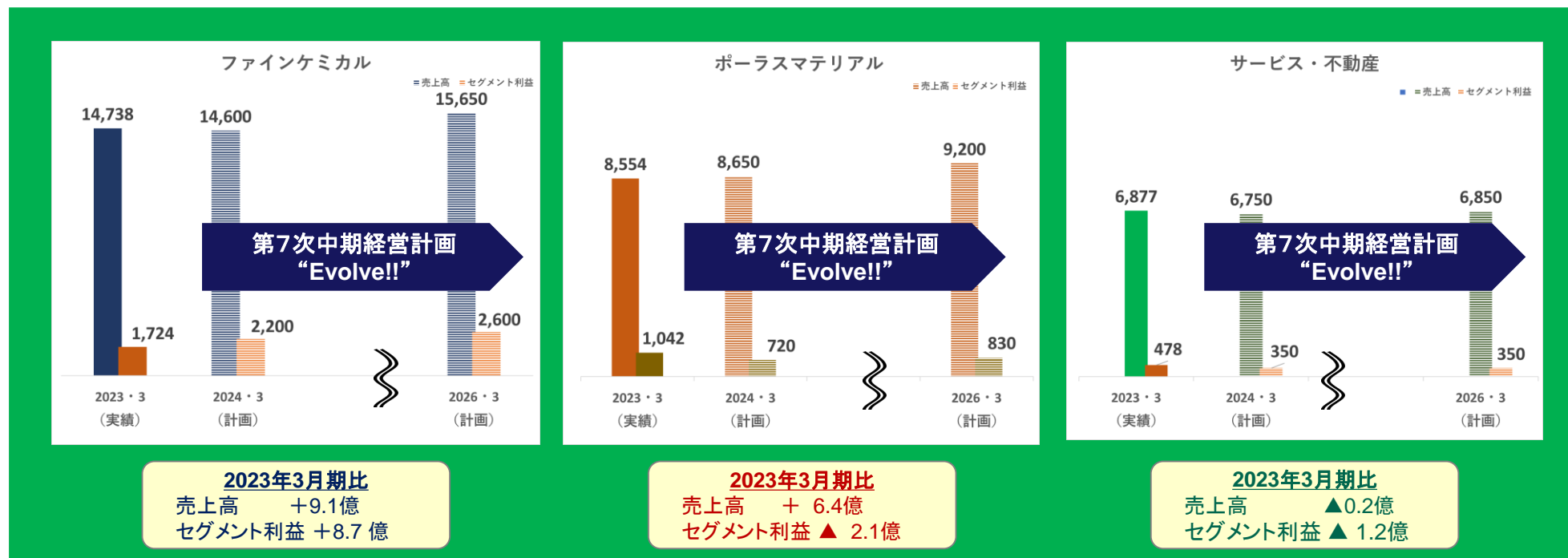
## ④計数目標 (セグメント別計数目標)

■ 6次中計を踏襲しファインケミカルを3カ年の成長ドライバーと位置付ける。

- ✓ FC…… 製品販売と併せてサービス強化や新しい価値提供を実現することにより、増収増益を計画
- ✓ PM…… 生産設備の増強と人員強化によるコストアップを想定していることから減益の計画となる。
- ✓ S・RE…… IR(統合リゾート)や2025年大阪万博を見越した不動産への新規・更新投資を計画していることなどにより、7次中計最終年度においては減益の計画となる。

### 第7次中期経営計画“Evolve!!”セグメント別損益計画

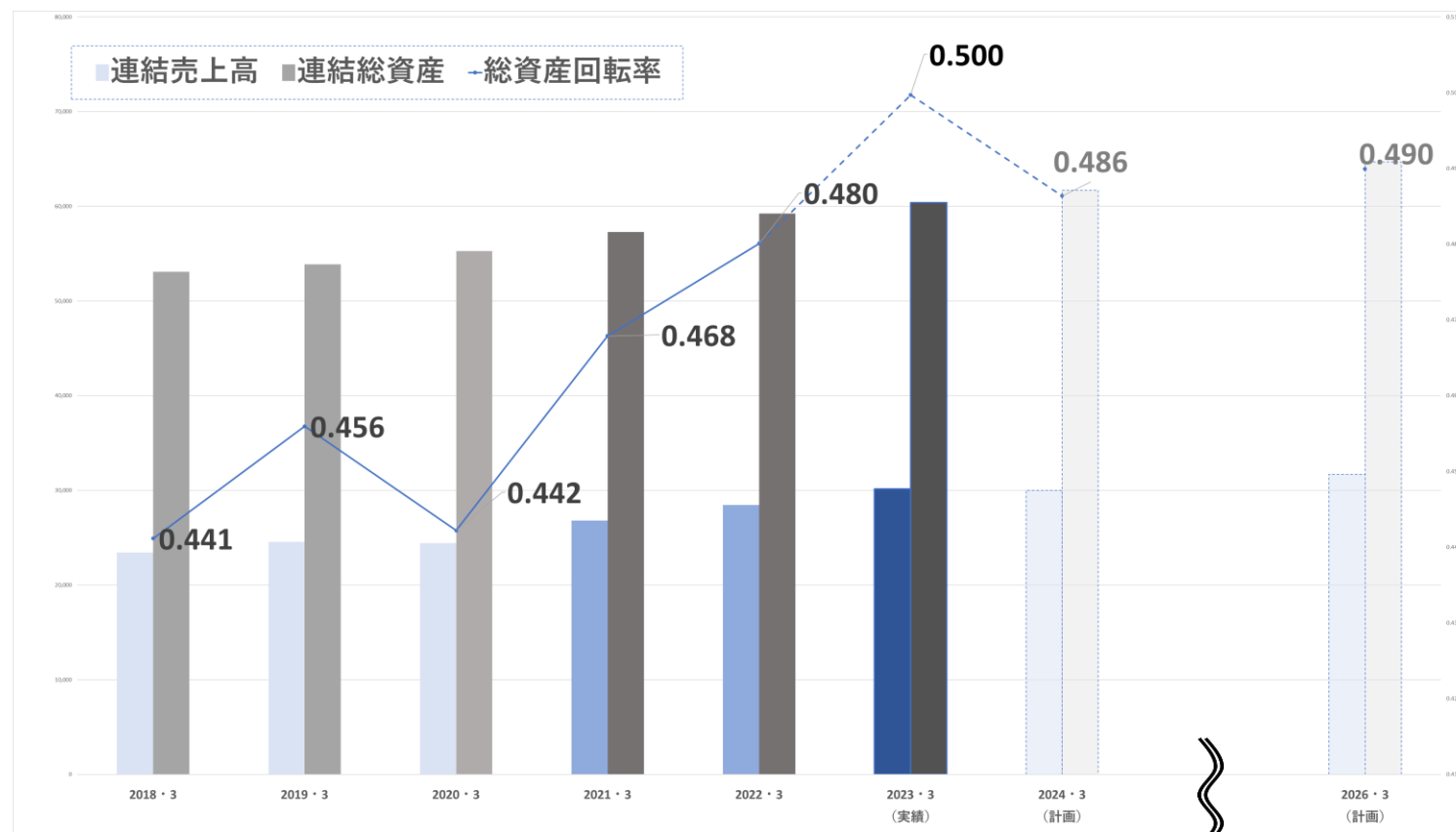
(単位:百万円)



## ④ 計数目標 (総資産回転率の推移)

- 総資産の増加に伴い売上高総資産回転率は足踏みが続いている、2023年3月期は0.5となったが、引き続き利益の伴う事業規模拡大のスピードアップが課題となる。

第7次中期経営計画“Evolve!!”総資産回転率



- ✓ 総資産回転率は過去の中計と比較して改善しており、2023年3月期においては0.5となる。
- ✓ 資本効率の改善を伴う事業規模拡大においてスピードアップを意識し、恒常的に0.5を上回ることを目指す。

第5次中期経営計画

第6次中期経営計画

第7次中期経営計画“Evolve!!”

## IV：第7次中期経営計画について

---

### ⑤株主還元策・設備投資・効率性指標



# 株主還元策について

- 株主還元のポリシーは6次中計を踏襲し、『安定的・継続的な配当』『連結営業利益の25%を目安とする。
- ポリシーは踏襲しつつも、2024年3月期においては普通配当:38.0円(中間:19.0円・期末19.0円)に加えて、70期・7次中計スタートを記念して7%(+3円)の配当を記念配当として上乘せし、1株当たり41.0円(中間:20.0円・期末21.0円)とする。
- また、併せて第7次中計期間中に7億円程度の自己株式取得を予定し、株主還元を強化する。

**70期・第7次中計**  
『7』にまつわる還元策を  
実施

**70期 7% 配当上乘せ(予定)**  
(中間:1.0円 期末:2.0円 通期3.0円の記念配当を予定)

**第7次中計期間中7億円程度の自己株式取得を予定**  
(2024年3月期は2億円程度を予定)

単位 百万円	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (計画)
連結営業 利益	<b>2,747</b>	<b>2,518</b>	<b>2,421</b>	<b>3,208</b>	<b>3,760</b>	<b>3,256</b>	<b>3,270</b>
一株当たり 配当額(円)	<b>22.0</b>	<b>23.0</b>	<b>24.0</b>	<b>32.0</b>	<b>36.0</b>	※ <b>37.5</b>	<b>41.0</b>
自己株式 取得額	<b>128</b>	<b>222</b>	—	<b>222</b>	<b>237</b>	—	<b>200</b>
総還元額	<b>606</b>	<b>724</b>	<b>526</b>	<b>773</b>	<b>1,021</b>	※ <b>819</b>	<b>1,101</b>

※配当は予定となります。

# 設備投資について (セグメント別)

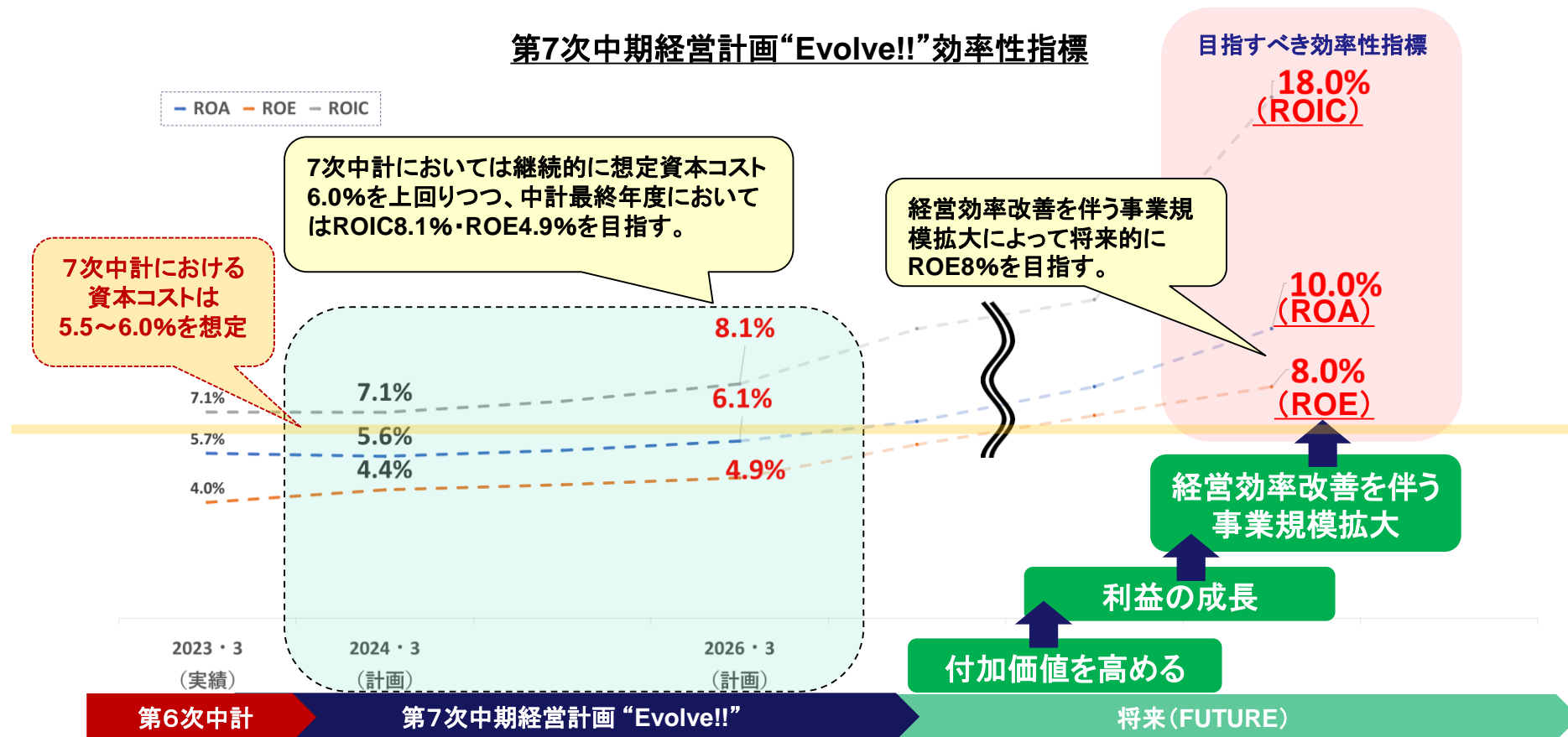
- 第7次中計期間中のグループ全体の設備投資総額は**50億円**を計画する。
- 主にファインケミカルソフト99製品販売においてデジタルへの投資(新基幹システム投資)として3年間で4億円を計画、また海外生産工場設立のため約2億円の設備投資を計画する。
- ポーラスマテリアルにおいては昨年8月に新設された工場の生産設備導入のため約6億円の設備投資を計画する。

単位:百万円	2024年3月期設備投資額 (計画)	第7次中計期間 設備投資総額 (計画)	第7次中計期間中設備投資概要
ファインケミカル	<b>800</b>	<b>1,800</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 99製品販売 新基幹システム投資 4億円</li> <li>■ 海外製品販売 生産工場設立 2億円</li> </ul>
ポーラスマテリアル	<b>900</b>	<b>2,050</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新設工場生産設備投入 6億円</li> <li>■ 生産設備更新・増強 12億円</li> </ul>
サービス不動産関連	<b>100</b>	<b>1,150</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不動産施設の修繕、更新投資</li> <li>■ 大阪・関西万博やIR(統合リゾート)を見越した設備投資</li> </ul>
グループ全体	<b>1,800</b>	<b>5,000</b>	株主還元と併せて積極的な設備投資によって『利益の成長』を促す。

# 効率性指標について (ROA・ROE・ROIC)

- 事業運営上の効率性指標として第6次中期経営計画より採用しているROICを7次中計においても継続する。
- 『利益の成長』によって将来的に効率性指標において『ステークホルダーからの正当な評価』を得ることを目指す。

## 第7次中期経営計画“Evolve!!”効率性指標



※ ROIC=税引き後営業利益÷事業投下資本

・税引き後営業利益=営業利益×(1-実効税率30%)

・事業投下資本=(流動資産-現預金-有価証券)-流動負債+(固定資産-保有社債等)

※ 資本コスト=WACC=CAPMとする。(有利子負債が実質ゼロのため。)

# Appendix: 計数資料



# 要約連結貸借対照表(対前期末比較)

(単位:百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	増減額		2022年 3月末	2023年 3月末	増減額
流動資産	29,330	29,990	+659	流動負債	4,643	4,176	▲466
現金及び預金	20,197	20,124	▲72	仕入債務	1,390	1,595	+204
売上債権	4,562	4,705	+142	未払法人税等	658	466	▲191
有価証券	300	0	▲300	未払金・未払費用	1,820	1,417	▲402
棚卸資産	3,988	4,364	+376	その他 (長期借入金含む)	773	696	▲77
その他	283	796	+513	固定負債	3,196	3,428	+232
固定資産	29,900	30,386	+486	負債合計	7,839	7,604	▲234
有形固定資産	22,049	22,675	+625	純資産	51,391	52,772	+1,380
無形固定資産	639	342	▲297	株主資本	51,176	52,475	+1,299
投資その他の資産	7,210	7,368	+158	その他包括利益累計額	431	594	+162
資産	59,231	60,377	+1,146	負債及び純資産	59,231	60,377	+1,146

# 連結業績(損益:対前期比較)

(単位:百万円)

	2022年3月期 3月末	2023年3月期 3月末	対前年比 増減額	対前年比 増減率
売上高	28,435	30,170	+1,734	+6.1%
売上総利益	10,946	10,611	▲335	▲3.1%
売上総利益率	38.5%	35.2%	▲3.3pt	-
販売費及び一般管理費	7,186	7,354	+168	+2.3%
営業利益	3,760	3,256	▲504	▲13.4%
営業利益率	13.2%	10.8%	▲3.4pt	-
経常利益	3,962	3,440	▲521	▲13.2%
税金等調整前当期純利益	3,956	3,083	▲873	▲22.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,755	2,063	▲691	▲25.1%

## 要約連結キャッシュフロー(対前期比較)

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,090	2,619
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 736	▲ 2,176
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,120	▲ 516
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1
現金及び現金同等物の増加額(▲減少額)	1,236	▲72
現金及び現金同等物の期首残高	18,649	19,885
現金及び現金同等物の期末残高	19,885	19,813
減価償却費	765	802
設備投資額(※)	1,332	1,960

(※)有形固定資産の取得による支出

# 連結経営指標ハイライト(対前年比較)

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	増減
総資産(百万円)	59,231	60,377	+1,146
純資産(百万円)	51,391	52,772	+1,380
自己資本比率	86.8%	87.4%	+0.6pt
ROA(経常利益÷総資産※)	6.7%	5.8%	▲1.0pt
ROE(純利益÷純資産※)	5.4%	4.0%	▲1.4pt
総資産回転率(売上高÷総資産※)	0.48	0.50	+0.02
1株当たり純利益(円)	126.38	95.11	▲31.27

※ 各利益は2023年3月期末時点を使用しております。  
 ※ 総資産・純資産の額は2023年3月期末時点を使用しております。

# ファインケミカル(損益:対前期比較)

(単位:百万円)	2022年3月期	2023年3月期	対前期比 増減額	対前期比 増減率
売上高	14,103	14,738	+634	+4.5%
一般用製品:ボディケア	2,117	2,044	▲72	▲3.4%
一般用製品:ガラスケア	3,969	3,869	▲100	▲2.5%
一般用製品:リペアグッズ	2,466	2,446	▲19	▲0.8%
業務用製品	1,850	2,025	+175	+9.5%
家庭用品等	1,360	1,164	▲196	▲14.4%
海外事業	1,575	2,615	+1,039	+66.0%
TPMS(タイヤ空気圧監視装置)	217	161	▲56	▲25.9%
電子機器・ソフトウェア開発	570	633	+63	+11.1%
その他・調整	▲24	▲222	▲198	-
売上総利益	6,674	6,286	▲388	▲5.8%
粗利益率	47.3%	42.7%	▲ 4.7pt	—
営業利益	2,211	1,724	▲487	▲22.0%
営業利益率	15.7%	11.7%	▲ 4.0pt	—

# ポーラスマテリアル(損益:対前期比較)

(単位:百万円)		2022年3月期	2023年3月期	対前期比 増減額	対前期比 増減率
売上高		7,655	8,554	+899	+11.7%
	産業資材	6,008	6,790	+783	+13.0%
		国内	3,245	+199	+6.5%
		海外	3,546	+585	+19.7%
	生活資材	1,647	1,762	+115	+7.0%
		国内	961	+72	+8.1%
		海外	801	+43	+5.6%
売上総利益		2,668	2,678	+9	+0.4%
	粗利益率	34.9%	31.3%	▲3.6pt	—
営業利益		1,105	1,042	▲63	▲5.7%
	営業利益率	14.4%	12.2%	▲2.2pt	—

# サービス(損益:対前期比較)

(単位:百万円)		2022年3月期	2023年3月期	対前期比 増減額	対前期比 増減率
売上高		5,428	5,455	+26	+0.5%
	自動車整備・钣金事業	2,384	2,511	+126	+5.3%
	自動車教習所	1,029	1,013	▲15	▲1.5%
	生活用品企画販売	2,015	1,929	▲85	▲4.2%
売上総利益		1,331	1,351	+20	+1.5%
	粗利益率	24.5%	24.8%	+0.3pt	—
営業利益		200	226	+26	+13.0%
	営業利益率	3.7%	4.2%	+0.5pt	—

# 不動産関連(損益:対前期比較)

(単位:百万円)		2022年3月期	2023年3月期	対前期比	対前期比
				増減額	増減率
売上高		1,247	1,422	+174	+14.0%
	不動産賃貸	428	414	▲13	▲3.2%
	温浴事業	780	971	+190	+24.4%
	介護予防支援事業	38	36	▲2	▲5.4%
売上総利益		271	294	+22	+8.1%
	粗利益率	21.8%	20.7%	▲1.1pt	—
営業利益		233	251	+18	+7.8%
	営業利益率	18.7%	17.7%	▲1.0pt	—



# セグメント情報(セグメント別売上高・営業利益比較)

(単位:百万円)

売上高	2022年3月期	全体構成比率	2023年3月期	全体構成比率	対前期構成比増減
ファインケミカル	14,103	49.6%	14,738	48.8%	▲0.7pt
ポーラスマテリアル	7,655	26.9%	8,554	28.4%	+1.4pt
サービス・不動産関連	6,675	23.5%	6,877	22.8%	▲0.7pt
合計	28,435	100.0%	30,170	100.0%	—

営業利益	2022年3月期	全体構成比率	2023年3月期	全体構成比率	対前期構成比増減
ファインケミカル	2,211	58.8%	1,724	53.1%	▲5.8pt
ポーラスマテリアル	1,105	29.5%	1,042	32.1%	+2.6pt
サービス・不動産関連	433	11.6%	478	14.8%	+3.1pt
合計	3,760	100.0%	3,256	100.0%	—

(※)合計には連結調整額を含む。

# SEEK OUT INNOVATION

～ 未来の“あたりまえ”を発見する～

